

金田町人の動き

(9月1日現在)

世帯数 2,749
 人口 9,553
 男 4,685 女 4,868
 出生 7 死亡 5
 転入 29 転出 45

かなだ

第 204 号

金 田 町 報

発行所 金田町教育委員会

編集兼 福 高 芳 雄
 発行人

印刷所 栗 林 印 刷 所

電話 (09474) ② 0506 番

敬老会開催さる!

住民課福祉係

九月十五日敬老の日にな
 み町民会館で「みんなで生
 かそう老人の力」をテーマ
 に式典が行われました。今
 年の該当者は六七四名であ
 ります。町長より各種の記
 念品の伝達があり挨拶の中
 に従来のいたわりの心より
 それぞれの能力を出し合せ
 て余生を自分達の力で楽し
 く過そうとの激励がありま
 した。その後引き続き演奏が
 行われ、式典は終了しました。

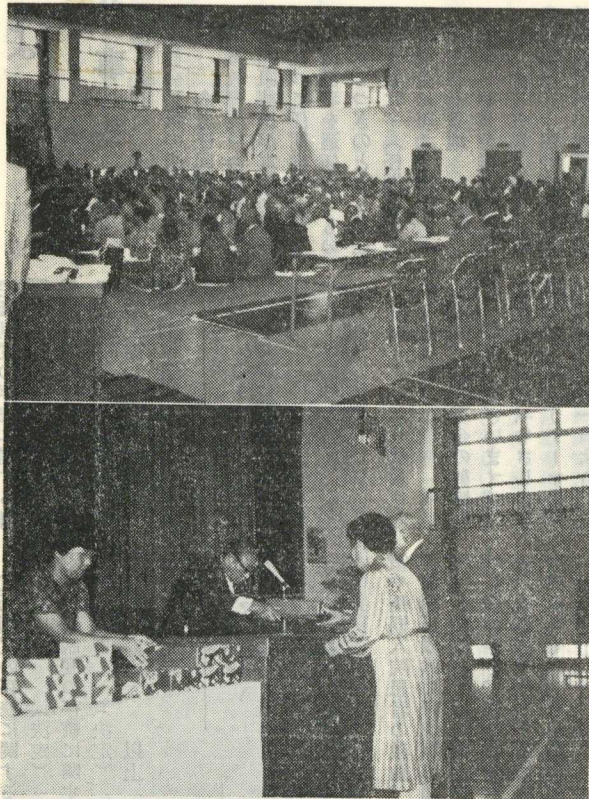
催され婦人会並びに老人会
 のみなさんによる舞踊も盛
 大な拍手の中に終り特に青
 年会により劇「水戸黄門」
 も好評を得無事終了致しま
 した。最後に婦人会のみな
 さんを始め関係者各位の御
 協力を厚く御礼申し上げます。

※金婚式該当者名(八組)

松本 勇次 アサノ殿
 吉海 栄 マサ殿
 平井 種義 マサキ殿

※米寿者該当者名(十名)

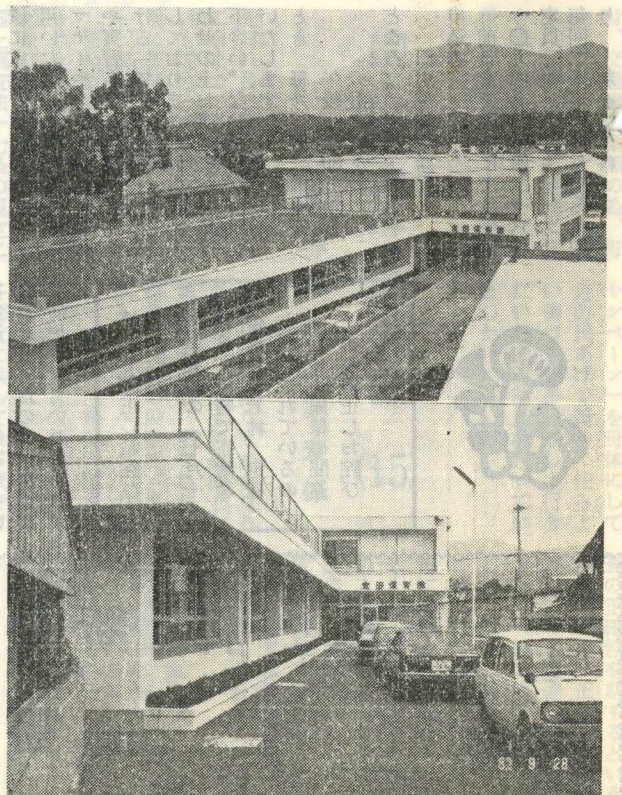
相浦 三歳 シヅエ殿
 大井寛太郎 ヨシエ殿
 岩本 清市 富代殿
 吉田 菊治 ミスエ殿
 相原 軍次 ウメノ殿
 辰島 善吉殿
 千手ツ子ノ殿
 池内ハナヨ殿
 井ノ口トワ殿
 薨我 タカ殿
 橋本ヤスエ殿
 川津 シメ殿
 春永マサエ殿
 相原 初殿
 真銅 亀松殿



金田保育園新園舎完成

— 58年の歩みを祝う —

金田保育園は大正拾四年
 四月金田幼稚園として創立
 し、以来今年で五拾八年目
 を迎えます。福岡県内でも
 最も古い保育園の一つとし
 てその歩みを続けておりま
 す。その永い歴史が物語る
 ように旧園舎の老朽は著し
 く、雨もりや、壁くずれで
 もはや使用に耐えない状
 態でした。かねてより地域
 の住民の皆様から、今か今
 かと園舎の改築が待ち望ま
 れていましたが、このたび
 待望の新園舎が完成し永年



の夢がやつと実現したわけ
 です。七月十七日の落成式
 には国・県・町の関係者を
 はじめ卒園生代表の方も多
 数参加され、最後の「夕や
 けこやけ」の大合唱で完成
 の喜びをわち合いました
 新園舎の概要、鉄筋コン
 クリート造二階建、延床面
 積七〇・三二平方メートルの近
 代的施設です。室内の色彩
 を明るく取り、子供の遊び
 の場を工夫して、屋上には
 人工芝の広い運動場も設け
 ました。資金においては、
 日本船舶振興会の補助金、
 と社会福祉事業振興会の借
 入金等を利用していただ
 きました。
 このたび金田町をはじめ
 多数の関係者の皆様の御協
 力によつて、無事新園舎が
 完成致しましたこと、ここ
 に厚く御礼申し上げます。
 現在、乳幼児期の子育て
 の重要性が強く叫ばれてい
 ます。当園におきましても
 よりよい環境のもとで保育
 内容をより一層充実させ、
 金田町の未来を背負つて立
 つ子供たちの身心共にすこ
 やかな成長を願つて、今後
 共一層精進努力していきま
 と思つていきます。

議会だより

議会事務局

昭和五十七年第七回定例町議会が九月二十四日召集され、会期を二十七日までが慎重審議されたことと、それぞれ可決を見て閉会いたしました。

その概要についてお知らせいたします。

- ①議案第五十号 金田町証人等の実費弁償に関する条例の一部を改正する条例について
- ②議案第五十一号 福岡県市町村消防団員等公務災害補償組合規約の一部変更について
- ③議案第五十二号 福岡県町村自治会館管理組合規約の一部を変更する規約の協議について
- ④議案第五十三号 金田町教

選任同意

本町教育委員会委員である大熊康郷氏が本年十月一日を以て任期満了となるので後任者を選任するものであり、つぎのとおり選任されました。(任期四年)

住所 金田町大字 金田 三二七番地
氏名 福高芳雄

「共同募金」のお願い

金田町社会福祉協議会

野山もすっかり秋景色となり、共同募金の御協力ありがとうございます。

今年もまた「やさしさを隣人に」と言うテーマのもと、この十月一日より、共同募金をお願いすることにいたしました。

当町では、この募金を敬老会の記念品や子供の危険防止のための看板・老人対策や長期入院患者の激励、各種福祉団体の育成等に利用させていただきます。

私達の手で、明るい住みよい地域社会をつくるために温いおもいやりをお寄せ下さい。

本年も共同募金の主旨をご理解いただき、募金運動に御協力をお願い申し上げます。

社協の陣容整い 発足する!

昭和五十七年四月一日より新しい組織を編成し、金田町社会福祉協議会が発足致しております。

飛躍し社協本来の目的である社会福祉事業を能率的に又効果的に進めるよう努力致しております。以下役員を御紹介致します。

金田町社会福祉協議会
会長 藤川 義臣 (行 政)
副会長 早瀬 園雄 (民生委員)
理事 植高 勇太郎 (議会議員)
理事 吉田 保 (議会議員)
理事 三浦 (議会議員)

わが子に

非行の芽はないか

昭和五十六年中、田川警察署管内で検挙された刑法犯少年は、四〇九人、全体の八二パーセント三三九人が児童生徒で占められ、その他有職無職の少年という。この数は刑罰法令には触れないが、罪を犯すおそれのある少年、つまり、ぐ犯、不良行為少年の氷山の一角という。本年は更に校内暴力や覚せい剤、シンナー乱用などの増加が目立ち、このペースでいくと少年非行は最悪の年になる恐れが強いという。今夏、福岡市郊外に住む独り暮らしの老人を七ヶ月間、三十七回にわたり脅し、現金二十五万円を奪い取っていた小、中学生ら二十数人が警察に補導された。包丁を振りかざし殴る、ける。小刀を首に突きつけ、頭から水をかけるなど、子供とは思えないひどい仕打ちをしていたという。子供の成長期にはいたずらや反抗はつきものだが、だが最近では子供らしさを失うに超へて暴化、犯罪化する傾向がある。この孤老いじめは子供に、相手の身になって考え、思いやりの心を育てる、思いやりの心を育てる

定価制度の存続に関する請願
①採択 (決定)
②塩専売制度の存続に関する請願
③採択 (決定)
④意見書の審議について
⑤たばこ販売店の指定制度

1. 帰宅時間が遅くなる
2. 食欲がない (外食して)
3. 金遣いが荒くなる
4. 持ち物に見慣れぬものが増える
5. 服装が派手になる
6. ウソをつく
7. 電話がしじゆうかかるといわれる。ある教育関係者は
8. 言葉が乱暴になる

町内商工会青年部による

「クリーンキャンペン」運動

金田町商工会青年部(部長 坂田勝彦・部員総数26名)は、地域振興活動を積極的に行うことと、我々のふるさとを見直し美しい郷土に住みよき地域づくりを図るため、3年前より県下一斉に



ありがとうございます
ございました

社会福祉協議会へ
桑野 静子 様
田中 治郎 様
元村サカエ 様
柳沢 昭三 様
大井モモ子 様
吉田代次郎 様
植高 秋江 様
久米 静枝 様
相原 軍治 様
池長シゲ子 様
田中シメ子 様
尾崎 政雄 様

「でんわ教室」
田川電報電話局
申込み
前日まで電話により受付
〇九四七四(四)二六番
定員
毎回二十名になり次第メ切り
料金 無料

田川電報電話局
申込み
前日まで電話により受付
〇九四七四(四)二六番
定員
毎回二十名になり次第メ切り
料金 無料

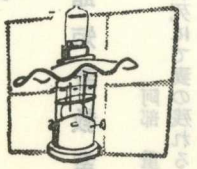
国土調査にご協力を

振興課 国土調査係

先日八月二十三日から九月二日までの十日間、上金田も団地の土地所有者を対象に仮閲覧を実施しました。一、仮閲覧について
現地立会調査の結果作成された地籍図(測量図)原図及び地籍簿案については、国土調査法十七条の規定により遅滞なく一般の閲覧に供しなければならぬことになっており、その閲覧の結果、誤り等が発見された場合は、これを修正しなければならぬことになっております。

ところが、この閲覧に供する地籍図原図は墨入れがなされているため、誤りがあった場合のその修正に時間がかかるばかりか、関係土地の全部について再度面積測定もなければならず、その結果地籍簿案はもろろんのこと、その他、地籍調査票等関係書類を全部修正しなければならぬ結果となり、これに要する時間

その一杯 断わる勇気が
事故を断つ





心臓病に関する講習会のお知らせ

田川心臓を守る会

講師の先生
 小倉記念病院外科部長 小兒科 延吉正清先生
 添田 健先生
 循環器内科部長 伴 敏彦先生 田川市立病院内科部長
 小形吉喜先生

短歌を詠みましょう

公民館短歌教室

美しい花が咲き、咲いた美しい花もやがては散り、汚れて枯れてしまう姿、虫や生物が生を受けそして死んでいく過程、自然には美しさと同時に、醜くさ恐ろしさもあります。その中に生きていく私たちの心には、その自然との出あいによつて考えたり、感じたり、悲しんだり、慕ったり、喜んでいたりする感情が生れ育つて

まいります。そこに詩があり歌があるので、路傍の名もない草に生きる強さを感じ、蟬のぬけ殻に生命の神秘を感じながら変化に富んだ日本に住んでいる私たち。四季の移り変わり行く姿への感動によつて歌は生れてまいります。

ず感嘆の言葉を口にした経験をきつと持つていて、私たちが言う短歌はそれなのです。その感動が言葉を生み、日本語として一番快い調子の響きを伝える五・七・五・七・七にまとめた詩が短歌なのです。感動はその場で消えてしましますが、その感動を大切に短歌に残す。こんな素晴らしいことはありません。また短歌は自分の生きていく心の歴史を綴るものとも言えます。

自分を見つめ、自分の生活を見つめ、その心を歌うものです。短歌の世界には利害関係も、社会的地位も、政治的立場も関りありません。難しい理屈もありません。金田町短歌教室はひとりでも多くの方々と、短歌を通じて語りあい、歡びあい、慰めあつて心豊かな人間として、町民どうしの心の絆を広め、深めていきたいと希つております。どんな素人でも構いません。老・若・男・女のけじめなく心ある方々の参加を待つております。ことに若い方の参加を歓迎します。御申込みは中央公民館又は左記へ

阿部重宏(東金田)
 藤林俊信(太陽)
 田代 稔(新町四丁目)
 山口倭子(本町五丁目)

金田町老人クラブ 俳句・短歌同好会



【俳句】

原田 豊茂
 留守がちの燕の出入り
 許されず

岩野 克芳

庭角に出番待ちする
 山案子かな

岡本勝次郎

鳥籠を洗ふ老婦や
 いわし雲

美しくしきシャム猫抱き
 て夜の秋

辰島 宗一

大和路の旅も終りに
 秋の風

離り住む孫に想ひを
 つくつくし

まさみ

そよ風にゆれて銀紙の
 鳥織

市川 法子

大根時き夕日落ちこむ
 杉の空

【短歌】

優勝の金のメタルの
 輝きにゲートボールの
 たのしさを知る

克 芳
 金田町老人クラブ連合会

鳥越 美枝
 それぞれの歳持て集ふ
 老人の顔はやさしく
 輝きて居り

お礼の言葉
 金田町の老人クラブ連合会
 は第一回初盆合同慰霊祭を
 開きました所当局婦人会
 第二長寿園並に多数の御参
 拜御賛同いただきました事
 を会員一同と共に厚くお礼
 申し上げます

此の催しは老人クラブの年
 中行事としていついつまで
 も続く事をお願い申し上げます
 ましてお礼の言葉といたし
 ます

昭和五十七年八月十九日
 連合会々長 辰島宗一
 本部書記 岩野勝義

久米静枝様
 辰島大空様

有意儀に使用させていただきました
 きます厚くお礼申し上げます

友清 隆雄
 ふりかへり何残るらめゆ
 くかたの わびしけれど
 われに歌ありも

小野トメ子
 天井から下りしロープに
 つかまりて 入浴するこ
 とにも夫は馴れたり

藤林 俊信
 出張の暇に尋ね来し義弟
 の 顔胃切除の鬚りも見
 へず

福原 照子
 今日も又痛みをうつたへ
 る母の声 只ひたすらに
 案ずるのみかな

菊地 一枝
 寒さをばいとふ齡となり
 ぬるか 春の彼岸をまし
 みに待つ

岡野富司生
 子をめぐり夜の職員室に
 母と教師の 同じ想ひの
 沈黙つつく

田代 稔
 おはようの声かけ合ひて
 走りゆく 川面をわたる
 秋風のなか

千手佐起子
 夫が立てばひろげし項具
 片よせて道あけくるる孫
 の可愛ゆさ

阿部 重宏
 われ死にて妻の残れるわ
 が家の 暮しのさまを思
 ふたまゆら

室 トヨ
 久々に娘の家を訪へば幼
 孫 いくつ泊るかと繰返
 しきく

久保 恵子
 早秋の草花手折り帰るき
 つ 描かむ油絵のモチー
 フにせむと

福田 昌
 全盛の時代を偲ばす恐龍
 は 化石となりても誇る
 ごと立つ

高木美代子
 立ち居さへ危くなりし病
 む夫が 壁をつたひて洗
 面にゆく

窪田 房子
 ただいまと笑顔で帰る亡
 き夫の 声に目覚めき夢
 なりしかな

九月詠草

公民館短歌教室

友清 隆雄

ふりかへり何残るらめゆ
 くかたの わびしけれど
 われに歌ありも

小野トメ子

天井から下りしロープに
 つかまりて 入浴するこ
 とにも夫は馴れたり

藤林 俊信

出張の暇に尋ね来し義弟
 の 顔胃切除の鬚りも見
 へず

福原 照子

今日も又痛みをうつたへ
 る母の声 只ひたすらに
 案ずるのみかな

菊地 一枝

寒さをばいとふ齡となり
 ぬるか 春の彼岸をまし
 みに待つ

岡野富司生

子をめぐり夜の職員室に
 母と教師の 同じ想ひの
 沈黙つつく

田代 稔

おはようの声かけ合ひて
 走りゆく 川面をわたる
 秋風のなか

千手佐起子

夫が立てばひろげし項具
 片よせて道あけくるる孫
 の可愛ゆさ

阿部 重宏

われ死にて妻の残れるわ
 が家の 暮しのさまを思
 ふたまゆら

室 トヨ

久々に娘の家を訪へば幼
 孫 いくつ泊るかと繰返
 しきく

久保 恵子

早秋の草花手折り帰るき
 つ 描かむ油絵のモチー
 フにせむと

福田 昌

全盛の時代を偲ばす恐龍
 は 化石となりても誇る
 ごと立つ

高木美代子

立ち居さへ危くなりし病
 む夫が 壁をつたひて洗
 面にゆく

窪田 房子

ただいまと笑顔で帰る亡
 き夫の 声に目覚めき夢
 なりしかな

山口 倭子

拾ひ集め岩に干したる若
 布見つつ 俊寛僧都の僧
 衣を想ふ

藤本 唯彦

東の間の陽ざしを窓に見
 たるのみ 雨は再び強く
 なりたり